

# HYDROCYDE

## 過酸化水素

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：HYDROCYDE 過酸化水素

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：産業用／製品の滅菌

使用上の制限：推奨用途以外に使用しないこと

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称：ゲティンゲグループ・ジャパン株式会社

住所：〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-8 スフィアタワー天王洲

担当部署：ヘルスケアマーケティング事業部

電話番号：03-5463-8313

FAX：050-3000-1988

### 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性（経口）：区分 4

急性毒性（経皮）：区分 3

急性毒性（吸入）：区分 2

皮膚腐食性/刺激性：区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分 1

発がん性：区分 2

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分 1（呼吸器）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分 1（呼吸器）

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性)：区分 1

(注) 記載なきGHS分類区分：区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

皮膚に接触すると有毒

吸入すると生命に危険

重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷

重篤な眼の損傷

発がんのおそれの疑い

臓器の障害（呼吸器）

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器）

水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 環境への放出を避けること。
- ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
- 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- 保護手袋/保護衣を着用すること。
- 保護手袋/保護衣/保護面を着用すること。
- 保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

- 漏出物を回収すること。
- 特別な処置が緊急に必要である。
- 特別な処置が必要である。
- 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- 直ちに医師に連絡すること。
- 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 口をすすぐこと。
- 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

貯蔵

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 施錠して保管すること。

廃棄

- 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：

混合物

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
過酸化水素	7722-84-1	35	1-419

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

この成分表に記載なき成分は、日本政府によるGHS分類結果一覧に記載されていません。

危険有害成分

毒物及び劇物取締法「劇物」該当成分

過酸化水素

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

過酸化水素

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

過酸化水素

### 4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

(吸入もしくは飲み込んだ場合の症状)

吐き気

腹痛

下痢

眩暈

呼吸困難

(皮膚に付着もしくは目に入った場合の症状)

刺激性

眼刺激

結膜発赤

医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

#### 適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。

#### 使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

### 特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

分解して酸素を放出し、火災を助長するおそれがある。

### 消火を行う者への勧告

#### 特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火水の下水への流入を防ぐ。

安全に対処できるならば、製品容器を火災危険区域から移動すること。

消火作業は、可能な限り風上から行う。

#### 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

安全に対処できる場合は漏洩を止める。

### 環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

河川等に流出した場合は、管轄機関に連絡をする。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

### 二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

(取扱者のばく露防止)

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

(注意事項)

- 皮膚に触れないようにする。
- 眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
- 保護手袋/保護衣を着用すること。
- 保護手袋/保護衣/保護面を着用すること。
- 保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。

接触回避

- 酸、塩基、還元性物質、有機化合物、可燃物、金属、重金属塩、金属塩との接触を避けること。

衛生対策

- 眼、皮膚、衣類につけないこと。
- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 取扱い後はよく手を洗う。

保管

安全な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。
- 容器を密閉しておくこと。
- 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
- 施錠して保管すること。
- 乾燥した場所に保管すること。

(避けるべき保管条件)

- 直射日光、高温、着火源(裸火、火花など)を避けること。

安全な容器包装材料

- 高密度ポリエチレン

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度、濃度基準値データなし

許容濃度

日本産衛学会の許容濃度データなし

(過酸化水素)

ACGIH(1996) TWA: 1ppm (眼, 上気道及び皮膚刺激)

ばく露防止

設備対策

- 適切な換気のある場所で取扱う。
- 洗眼設備を設ける。
- 手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

- 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

#### 手の保護具

保護手袋を着用する。

推奨材質：ニトリル、ブチルゴム、PVC

#### 眼の保護具

側面シールド付安全メガネまたは化学用品用ゴーグルを着用する。

#### 皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体

色：無色透明

臭い：僅かな刺激臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点：-33°C

沸点又は初留点：108°C(1013 hPa)

沸点範囲データなし

可燃性（ガス、液体及び固体）：燃焼しない

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：適用外

引火点：燃焼しない

自然発火点：適用外

分解温度データなし

pH: 1-4

動粘度：1.11 mPas (20°C)

動粘性率データなし

溶解度：

水に対する溶解度：溶ける

溶媒に対する溶解度データなし

n-オクタノール/水分配係数：log Pow -1.1 (20°C)

蒸気圧：12hPa(30°C)

密度及び/又は相対密度：1.13 (25°C)

相対ガス密度(空気=1)：1

粒子特性：適用外

## 10. 安定性及び反応性

反応性：

塩基、還元剤と反応する。

化学的安定性：

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性：

可燃物、有機化合物と接触すると火災や爆発のおそれがある。

避けるべき条件：

直射日光、高温、着火源(裸火、火花など)を避けること。

混触危険物質：

酸、塩基、還元性物質、有機化合物、可燃物、金属、重金属塩、金属塩

危険有害な分解生成物：

酸素 (燃焼促進のおそれがある)

## 11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性（経口）

【製品】

区分 4, 飲み込むと有害

【成分データ】

【日本公表根拠データ】

(過酸化水素) rat LD50=805mg/kg (DFGOT vol.26, 2011)

急性毒性（経皮）

【製品】

区分 3, 皮膚に接触すると有毒

【成分データ】

【日本公表根拠データ】

(過酸化水素) rabbit LD50=690mg/kg (DFGOT vol.26, 2011)

急性毒性（吸入）

【製品】

区分 2, 吸入すると生命に危険

【成分データ】

【日本公表根拠データ】

(過酸化水素)

mist: mouse LC50=0.46-1.00mg/L/4hr (DFGOT vol.26, 2011)

vapor: rat LC50=1438ppmV/4hr (DFGOT vol.26, 2011)

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

【製品】

区分 1, 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷

【製品データ】

【pHに基づく分類根拠】

pH ≤ 2 であることから、皮膚腐食性/刺激性：区分 1 に分類した。

【成分データ】

【日本公表根拠データ】

(過酸化水素) ラビット 腐食性 (EU-RAR, 2003 et al)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

【製品】

区分 1, 重篤な眼の損傷

【製品データ】

【pHに基づく分類根拠】

pH ≤ 2 であることから、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分 1 に分類した。

【成分データ】

【日本公表根拠データ】

(過酸化水素) 動物 腐食性 (EU-RAR, 2003)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性

【製品】

データ不足のため、分類できない。

【成分データ】

データなし

皮膚感作性

【製品】

データ不足のため、分類できない。

【成分データ】

データなし

生殖細胞変異原性

【製品】

データ不足のため、分類できない。

【成分データ】

データなし

発がん性

【製品】

区分 2, 発がんのおそれの疑い

【成分データ】

【日本公表根拠データ】

(過酸化水素) cat.2; ACGIH A3 (ACGIH 7th, 2001)

【IARC】 (過酸化水素)

Group 3: ヒトに対する発がん性については分類できない

【ACGIH】(過酸化水素)

A3(1996): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

生殖毒性

【製品】

データ不足のため、分類できない。

【成分データ】

データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

【製品】

区分 1, 臓器の障害

【成分データ】

【区分1】

【日本公表根拠データ】

(過酸化水素) 呼吸器 (ACGIH, 2001; EU-RAR, 2003)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

【製品】

区分 1, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

【成分データ】

【区分1】

【日本公表根拠データ】

(過酸化水素) 呼吸器 (EU-RAR, 2003)

誤えん有害性

【製品】

データ不足のため、分類できない。

【成分データ】

データなし



## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[製品]

区分 1, 水生生物に非常に強い毒性

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(過酸化水素) 藻類 (ニッチア) EC50=0.85mg/L/72hr (EURAR, 2003)

水溶解度

(過酸化水素) 混和する (ICSC, 2000) 残留性・分解性

残留性・分解性

[成分データ]

(過酸化水素) 急速分解性あり (EU-RAR, 2003)

生体蓄積性

[成分データ]

(過酸化水素) log Pow=-1.36 (ICSC, 2000)

土壌中の移動性：土壌中の移動性データなし

他の有害影響：オゾン層への有害性データなし

## 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

承認された廃棄物集積場で処理する。下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。

汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

## 14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 2014

正式輸送名 :

過酸化水素、水溶液、濃度が20質量%以上40質量%以下のもの(必要に応じて安定剤を加えたもの)

分類または区分 : 5.1

副次危険 : 8

容器等級 : II

指針番号: 140

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 2014

正式輸送名 :

過酸化水素、水溶液、濃度が20質量%以上40質量%以下のもの(必要に応じて安定剤を加えたもの)

分類または区分 : 5.1

副次危険 : 8

容器等級 : II

## IATA 航空危険物規則書

国連番号またはID番号 : 2014

正式輸送名 :

過酸化水素、水溶液、濃度が20質量%以上40質量%以下のもの(必要に応じて安定剤を加えたもの)

分類または区分 : 5.1

副次危険 : 8

危険性ラベル : Oxidizer & Corrosive

容器等級 : II

### 環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当): 該当

### 特別の安全対策

特別の安全対策データなし

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

有害液体物質(Y類)

過酸化水素

MARPOL条約付属書V - HME(海洋環境に有害)

IMO規則に従うばら積みでの海上輸送は適用されない。

### 国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法 : 酸化性物質類 酸化性物質 分類5 区分5.1

航空法 : 酸化性物質類 酸化性物質 分類5 区分5.1

## 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

### 毒物及び劇物取締法

劇物 (令第2条) : 過酸化水素(35%)(法令番号 19)

### 労働安全衛生法

特化則に該当しない

有機則に該当しない

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物 : 過酸化水素(別表第9の126)

名称通知危険/有害物 : 過酸化水素(別表第9の126)

皮膚等障害化学物質 (規則第594条の2) : 過酸化水素

### 化学物質管理促進(PRTR)法

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

### 労働基準法

疾病化学物質 (規則別表第1の2第4号1) : 過酸化水素

消防法に該当しない。

化審法における特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

### 水質汚濁防止法

指定物質

過酸化水素 : 法令番号 4

## 16. その他の情報

### 参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN IMDG Code, 2022 Edition (Incorporating Amendment 41-22)

IATA 航空危険物規則書 第65版 (2024年)

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2023 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)

Supplier's data/information

GESTIS-Stoffdatenbank

Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

### 責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和4年度 (2022年度)) です。